

2014

No. **293**
3

『だれもが その人らしく 安心して暮らせる福祉社会の実現』をめざして

いばらきの 社会福祉

Social Welfare of Ibaraki



防災ワークショップ（関連記事 P2～3）

Contents

2 ~ 3

特集 「今、だからこそ考えよう！災害のこと～みて、きて、体験して防災を学ぼう～」を開催しました！

4 第18回茨城県健康福祉祭いばらきねりん文化祭開催ソウェルクラブのご案内
新施設の紹介

5 居宅介護サービスセンター「縁側につどう家“であい”」
わかち合おう小さな善意

6 information

7 社協職員リレートーク

8 ●はんどちゃんネットワーク運動 地域福祉活動レポート
境町「朗読ボランティア すばる」

はんどちゃんを紹介

はんどちゃんは、「福祉コミュニティづくり県民運動」のキャラクターとして茨城県社会福祉協議会、茨城県内の市町村社会福祉協議会を中心に活用されています。

みんなの手で地域をつくらう



はんどちゃん

ふれあいネットワーク





「今、だからこそ考えよう!災害のこと~みて、

1. 東日本大震災から3年…。もう一度、災害について考えてみよう

2月11日(火)、「ボランティア・市民活動フェスティバル プレ開催 今、だからこそ考えよう!災害のこと~みて、きいて、体験して防災を学ぼう~」を開催しました。

このフェスティバルは、県民参加型の福祉活動を進めるために平成26年度から開催を予定している「ボランティア・市民活動フェスティバル」のプレイベントです。「防災」をキーワードに、『みる』、『きく』、『考える』、『体験する』、『参加する』の5つのコンセプトを通し、一人ひとりが東日本大震災を振り返り、体験的に防災について学び、今後の被災地への復興支援や地域の防災活動に繋げることを目的に開催しました。

2. 『みる』 展示コーナー

東日本大震災時の写真やパネル展示、災害ボランティア活動に関するパネル展示を行いました。また、震災時の備えとして用意しておいた方がよい防災袋や、備蓄品等も展示しました。特に備蓄に関しては東日本大震災後、最低7日以上以上の備蓄が必要とされています。実際にどのくらいの食料と水の備蓄が必要なのかを実際の量で展示しました。



東日本大震災に関する展示コーナー

3. 『きく』 講演会「東日本大震災とこれから」

津波で大きな被害にあった宮城県南三陸町で現在語り部ガイドとしてご活躍されている阿部博之さんと、同じく茨城県内で大きな津波の被害にあい、現在復興に向け地域が一体となって活動に取り組んでいる北茨城市の久保田三枝子さんをお招きし、お話をいただきました。



講演会の様子

東日本大震災が起きた3月11日、その時、東北の被災地では、そして茨城県内では何が起きていたのか、被災した地域の人々はどのように震災を見つめ、復興活動に取り組んでいるのか、これから起きるかもしれない大震災に備えて今必要なことは何かをお話していただきました。

4. 『考える』 子どもの防災教室&大人の防災教室

子どもの防災教室では、地震や災害について子ども達自身が考えるきっかけとして、防災科学技術研究所のDr.ナダレンジャーによる科学実験ショーを行い、会場は終始驚きや笑い声に包まれていました。

また、大人向け防災教室では*「クロスロード」に挑戦しました。ゲームは「YES」か「NO」かの2択で、多数派となる答えを選んだ人が勝つというルールのもと、参加者は「お風呂の残り湯は溜めておく?」や「避難所にペットは連れて行く?」といった災害時への備えや対応についての問題を考えるきっかけとなりました。

*クロスロード…英語で「岐路」「分かれ道」。災害が起こる前の備え、また起こってからの対応には、多くのジレンマを伴う重大な決断が含まれています。クロスロードゲームは災害対応について、様々な意見や価値観を参加者同士で共有することを目的に作られたゲームです。



Dr. ナダレンジャーの科学実験ショー

きいて、体験して防災を学ぼう～」を開催しました!

5. 『体験する』 防災ワークショップ&起震車・煙ハウス・はしご車体験

防災ワークショップを行い、新聞紙で作る食器やスリッパの作り方、アルミホイルとティッシュペーパー、そしてサラダ油で作る緊急時の灯りの作り方を学びました。また、日本赤十字社茨城県支部のご協力の下、毛布を使った応急担架



起震車体験に挑戦!

の作り方や、緊急時の応急手当の方法などを体験しました。屋外では、地震の揺れを体験できる起震車体験や、水戸消防本部のご協力による煙ハウス体験とはしご車体験を行いました。特にはしご車体験は子ども達に人気で、60名限定の整理券は午前中のうちに全てなくなってしまいました。



はしご車体験

6. 『参加する』 スタンプラリー

各プログラムを回るスタンプラリーを実施、フェスティバルの最後に抽選会を行いました。抽選会にも多くの方が参加され、当選者には防災グッズ等をプレゼントしました。

7. フェスティバルを開催して

フェスティバル当日は、朝から雪が舞う天候でしたが、関係団体にも協力をいただき、多くの方に参加していただくことができました。

東日本大震災から3年。被災地では現在も復興活動が行われており、震災時の記憶を風化させず被災地の支援を続けていくことが求められています。また、いつどこで起こるかわからない自然災害に備え、東日本大震災の体験を防災に繋げていくことが必要です。今回のフェスティバルで地震について考えるきっかけができ、県民の防災の一助につながったことと思います。

8. ボランティア・市民活動フェスティバルについて

平成26年度には、*ボランティア・市民活動フェスティバルの開催を予定しています。このフェスティバルはボランティアや市民活動に取り組まれている方だけではなく、興味関心がある方にも参加をしていただき、よりよい市民社会構築に向けた協議・交流の場にしていこうと考えています。ぜひ、皆様のご参加をお待ちしています。

*ボランティア・市民活動フェスティバル…茨城県社会福祉協議会では、ボランティア活動を推進するため、平成元年から平成25年度まで県域を6ブロックにわけ、各ブロックにおける研究集会を中心に支援してまいりました。平成26年度からは年毎にテーマを設定した「ボランティア・市民活動フェスティバル」を通してボランティアや市民活動の推進を行います。



第18回茨城県健康福祉祭いばらきねんりん文化祭開催

2月22日(土)に、いばらきねんりん文化祭の表彰式を開催しました。表彰式では、茨城シニアマスターによるミニコンサートを開催するとともに、「わくわく美術展」と「ほく☆わたしのおじいちゃん☆おばあちゃんの絵コンクール」(以下「児童画コンクール」という。)の入賞者へ賞状の授与が行われました。

今年は、「はんどちゃん」も美術展に参加し、会場を盛り上げました。

文化祭は、2月22日から2月28日まで茨城県立県民文化センターにて開催され、「わくわく美術展」748点(入賞75点、入選653点、前回事業賞受賞者9点、審査員11点)、「児童画コンクール」入賞48点を展示しました。

「わくわく美術展・茨城県知事賞受賞者」(敬称略)

【日本画の部】 飯塚 忠男(つくば市)、佐藤 壽子(笠間市)

【洋画の部】 伊藤 淑江(鹿嶋市)、高須 栄子(鹿嶋市)

【彫刻の部】 三澤 宇紀子(日立市)

【工芸の部】 鈴木 勝江(下妻市)、牧野 玲子(土浦市)

【書の部】 鈴木 穆(阿見町)、大内 政男(日立市)

【写真の部】 会沢 三代喜(日立市)、畠山 正(水戸市)

「児童画コンクール・茨城県知事賞受賞者」(敬称略)

【低学年の部】 斉藤 風椰(ひたちなか市)

【中学年の部】 佐々木 彩羽(つくば市)

【高学年の部】 赤荻 将陽(つくば市)



表彰式の様子



受賞者をお出迎えするはんどちゃん

ソウェルクラブのご案内

●ソウェルクラブとは

ソウェルクラブは、社会福祉法に基づき社会福祉従事者の福利厚生を図ることを目的に、厚生労働大臣から指定された唯一の法人です。規模のメリットを最大限に活かし、会員のニーズに応じた多様なサービスを提供しています。

●会員サービス内容

*健康管理・資質向上のために

健康生活用品給付、生活習慣病予防検診費助成、慶事のお祝いや弔慰金・見舞金の支給等のほか、資質向上のために無料の講習会を開催。

*リフレッシュや親睦を深めるために

クラブ活動への助成や、提携宿泊施設やテーマパークを会員価格で利用できるほか、各種保険、ショッピングサービスを提供。

*地域で働く仲間との交流を図るために

県事務局が企画する旅行、観劇などの会員交流事業を格安料金でご案内。

●新しいサービス

平成24年度より“クラブオフ”を、また、非常勤職員向けサービスを導入し、利用できるサービス・対象職員が拡大しました。

●掛金

常勤職員/1人あたり毎年度1万円

非常勤職員/1人あたり毎年度5千円

●問い合わせ先

茨城県社会福祉協議会福祉事業部

TEL: 029-241-1133

新設福祉施設の紹介

(平成25年11月1日～平成26年1月31日までの開設)

特別養護老人ホーム ユーハイム常陸太田

設置主体名/誠慈会 定員/90名

〒313-0007 常陸太田市新宿町1427番地の1

TEL: 0294-33-8855

■広告

福祉系資格の取得をご検討の際は考えて行動出来る介護が身につく三幸福祉カレッジへお問い合わせください。

今後、活躍の場を広げたい方は…

実務者研修

<<水戸教室 好評開講中!>>

「実務者研修」とは、より質の高い介護サービスを提供するために、実践的な知識と技術の習得を目的としています。介護職員として働くうえで必要な介護課程の展開や認知症等について学ぶことができ、介護の専門家として生涯働き続けるためのスキルを磨くことができます。

※平成27年度の介護福祉士国家試験から、実務者研修の修了が必須となります。



平成26年度
水戸教室 開講準備中!

最短1ヶ月で資格を取得!

介護ヘルパー 初任者研修

(介護職員初任者研修)

介護職員としてお仕事をする方に、最初にご受講いただく講座です。福祉の現場を意識したカリキュラムと実践的な技術指導によって、ヘルパーとして必要不可欠な「福祉の心」を学ぶことができます。



福祉社会を変えていく福祉教育専門学校

三幸福祉カレッジ

<<介護ヘルパー初任者研修・実務者研修>>

資料のご請求は
24時間受付中

☎ 0120-294-350

三幸福祉カレッジ



検索

居宅介護サービスセンター「縁側につどう家 “であい”」

(平成 26 年2月 18 日)

子どもから高齢者まで、多くの笑い声が響いている一軒の民家が東海村にあります。

その民家の名前は「縁側につどう家 “であい”」。平成 25 年 10 月に開所した小規模多機能ケア拠点です。

東海村社会福祉協議会が「地域を知るには地域の中から」と、住宅地の中の民家を借り上げ、地域住民の交流と相談を気軽に行える場所とともに、居宅介護支援事業やデイサービス、ホームヘルプサービスも提供する小規模で多くの機能を備えた拠点として開所しました。365 日、職員が常駐しているの、いつでも福祉の相談が受けられます。また、通所介護と訪問介護は同じ職員が対応するので、安心してサービスを受けることができます。

取材当日は、週 1 回 “であい” を拠点に活動をしている親子サークル “ポシット” の方々とデイサービス利用者が一緒にゲームをしていました。子どもたちが利用者に対し、ゲームに参加しやすいように自然と席を譲ったり、利用者が子どもを抱っこするなど、思いやりと笑い声その場を明るく温かくしていて、まるで親戚が集まって団欒しているようでした。自分の家のように利用している方が多く、初めての方でも自然と溶け込みやすい環境でした。

開所して数カ月、もっと地域の人を知ってもらい、将来的に同じような拠点を増やし、より多くの “であい” が生まれる場所として地域に浸透し活用されていく事を目指しています。

「縁側につどう家 “であい”」は見学することができますので、興味のある方は、以下の問合せ先にご連絡のうえお立ち寄りください。



縁側につどう家 “であい”



皆で一緒にお手玉遊び

問い合わせ先

社会福祉法人 東海村社会福祉協議会 居宅介護サービスセンター（「縁側につどう家であい」内）

TEL：029-229-1322 / FAX：029-229-1336

わかち合おう小さな善意

〈平成25年11月～平成26年1月善意金等の預託と払い出し状況〉（敬称略）

善意金

預託者名	金額（円）
匿名	80,180
株式会社ヤクルト本社	100,000
水戸ヤクルト販売株式会社	100,000
古河ヤクルト販売株式会社	100,000
茨城新聞文化福祉事業団	1,500,000
中澤望	30,000
合計	1,910,180

ボランティア基金

預託者名	金額（円）
電機連合 日立工機労働組合	33,000
合計	33,000

交通遺児福祉基金

預託者名	金額（円）
海老根道雄	10,000
一般社団法人 日本自動車販売協会 連合会茨城県支部	1,000,000
合計	1,010,000

善意品

預託者名	善意品	払出先名
日産労連茨城地方協議会	チャリティきやらばん招待 3施設	社会福祉施設
茨城県生命保険協会	福祉巡回車2台	市町村社会福祉協議会
水戸信用金庫	座面昇降機能付き車いす 14台	社会福祉施設
大内幸夫	クリスマスケーキ 10個	社会福祉施設
常陽ボランティア倶楽部	折りたたみ式アルミリヤカー 4台	茨城県社会福祉協議会
NTT東日本茨城支店	電話お願い手帳 500部 ふれあい速達便 500部	社会福祉団体

使用済み切手・使用済みテレホンカード等

預託者名	預託者名	
茨城県母子寡婦福祉連合会	原子力健康保険組合	オーシャンクラブ
高柳美幸、高柳真美、眞子勉	ときわの杜保育園	株式会社 三共建設
アイシーネット介護センター	きらら館 岡部雄一	日本労働組合総連合会茨城県連合会
茨城県保健福祉部長寿福祉課	株式会社 茨城朝日	常陽ボランティア倶楽部
電気連合日立工機労働組合	塩幡保浩	大津保子
株式会社 ヤマシタコーポレーション	アクティブライフさかど	
社会福祉協議会（鹿嶋市、神栖市、取手市、龍ケ崎市、稲敷市、守谷市、小美玉市、日立市、茨城町、高萩市、常陸太田市、水戸市、かすみがうら市、古河市、城里町、筑西市、阿見町、桜川市）		

information



お知らせ HPリニューアル及び公式 Facebookのお知らせ

平成26年2月、県社協ホームページがリニューアルしました。

リニューアルに伴い、トップページのURLの変更はありませんが、個別ページのブックマークをされていた方は、URLが変わっている場合がありますのでご確認ください。

なお、下記については、県社協ホームページの一部として移転しました。

- ・茨城県社協の福祉サービス評価のご案内

- ・わくわくセンターホームページ

■ 県社協ホームページ

<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/>

また、県社協公式 Facebook ページを開設しました。

■ 県社協公式 Facebook ページ

<http://www.facebook.com/ibarakikenshakyo>

お知らせ ボランティア活動保険等の改定について

平成26年4月1日からボランティア活動保険等が下記のとおり改定されます。

1. 保険料について

ボランティア行事用保険 Bプラン（宿泊を伴う行事）の保険料引き上げ

例 【25年度】1泊2日 210円

→ 【26年度】1泊2日 224円

※上記は一例です。保険料は宿泊日数によって異なります。

2. 保険金について

(1) 手術保険金

【25年度】入院を伴う手術に対し入院日額の10倍、20倍、40倍のいずれかが支払われる。



【26年度】日帰り手術も支払い対象とし、日帰り手術の場合は入院日額の5倍、入院手術の場合は入院日額の10倍が支払われる。

(2) 後遺障害保険金

【25年度】支払割合は、傷害の程度によつての保険特有の設定方式で、死亡保険金の3～100%が支払われる。



【26年度】政府労災に準拠し、1級から14級までの等級区分に変更し、死亡保険金の4%（14級）～100%（1級）が支払われる。

※詳細については「ふくしの保険」のホームページ (<http://www.fukushihoken.co.jp/>) 等でご確認いただくか、最寄りの社会福祉協議会までお問い合わせください。

募集 「防災ボランティア」を募集しています

県社協では、いつ起きるかわからない災害に備え、災害支援活動していただく「防災ボランティア」の登録を行っています。

登録された方には、災害が発生した場合に活動を要請することがあります。（登録者の都合により要請を断ることもできます）

その他防災ボランティアに関する研修等の案内をさせていただきます。

■登録について

登録は県社協ホームページ内「災害情報」にアクセスし「茨城県防災ボランティア登録申込書」をダウンロードして、必要事項を記入し、茨城県社会福祉協議会にFAXで送信してください。

※ 注意

県社協に提出された登録に関する情報について、茨城県内にお住まいの方は、お住まいの市町村社協に情報提供をさせていただきます。

■問い合わせ先

茨城県社会福祉協議会
福祉のまちづくり推進部
TEL：029-243-3805



募集 ホームページバナー 広告を募集しています

県社協では、ホームページバナーの広告を募集しています。

■サイズ・料金

- ・規格 1枠＝縦50ピクセル×横160ピクセル
- ・料金 1枠＝30,000円／3ヶ月

■掲載

県社協ホームページのトップページで県社協が指定した位置

■募集数（平成25年3月5日現在）

残り 1枠

■申し込み方法

県社協ホームページ「広告の募集について」に掲載してある要項を熟読のうえ、申込書と広告原稿を電子媒体により添付し、下記あてに郵送ください。

■申し込み・問合せ先

茨城県社会福祉協議会 企画室
TEL：029-241-1133

茨城県はんどちゃん人づくり研修等事業「施設職員等研修ガイド」

（平成26年4月～6月開催予定分）

4月

16日～17日	社会福祉施設等新任職員研修 A (高齢者分野)
23日～24日	社会福祉施設等新任職員研修 B (児童・障害児者分野)

5月

8日～9日	社会福祉施設等新任職員研修 C (保育分野)
15日～16日	カウンセリング研修
22日～23日	メンタルヘルスケア研修 A コース
26日～27日	社会福祉施設等新任職員研修 D (高齢者分野・県南会場)

6月

12日	接遇マナー研修
16日～17日	カウンセリング・ステップアップ研修
23日～24日	メンタルヘルスケア研修 B コース
26日～27日	リスクマネジメント研修 A コース

※日程につきましては、あくまで予定です。講師との調整などにより、開催日が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

※上記研修等についての問い合わせは、福祉人材・研修部（TEL：029-244-3755）までお願いいたします。なお、県社協ホームページ「福祉の仕事・研修」からも研修案内が閲覧できますので、ぜひご活用ください。

<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/>

社協職員リレートーク
バブルへGO!

つくばみらい市社会福祉協議会 瀧村 徹

皆さんは、バブルと言ったら何を思い出しますか？バブル世代の方にしかわからない話ですみません。当時20歳過ぎの自分は、ワンレン・ボディコンと言う言葉にとっても敏感でしたが、テレビや雑誌で見ることしかありませんでした。太い眉毛に赤い口紅etc・・・でも、書きたいのはコレではないんです！

何がバブルだったのかと言うと、お金の回りが早い状態、すなわちお金を得る、そしてお金を使うの繰り返し、そして世の中が「イケイケ」の状態でした。DCブランド・高級車・F1ブームにスキューバなど、とにかく金を使うのが当たり前の状況です。多くの男子が体験したと思われる一通りのことには手を出した、または齧った記憶があります。

そんな中でワンレン・ボディコンのお姉さんたちとの出会いもなく、仲間同士で集っては車やバイクの改造、そして大爆走（注：暴走族ではない）というようなことを繰り返していました。現在のように酒などの嗜好品も好まず贅沢なこともしませんでした。手に入れたお金は車と部品代、そしてガソリン代などへと消えてしまいました。しかし、社協の仕事とはほぼ無縁であろう整備の技術と知識は身に付いており、今でも色々な場面で役に立っていることが自分にとってはバブルの遺産かもしれません。

自分がこの職についたのはバブル崩壊後の平成4年でした。一般的に昭和62年から平成3年2月頃までがバブル景気と言われていますが、まだバブルの余韻が残り、景気が悪いというイメージがなかった時代です。その頃は、金銭的には余裕を感じていたと思います。

あれから20年以上が過ぎ、子どもたちが大学生になると学費やら何やらで負担が増大し、住宅ローンを含め3重ローンを返済しながら仕事に励む日々。多趣味な自分が生きていくのには厳しい世の中です。とは言っても今ではバブル期以上に仕事が楽しく、ボランティアの皆さんをはじめ、多くの方々からお金では買えないものを沢山もらっているような気がします。これって、ボランティア・バブル!?

P.S 今回のタイトルになっている「バブルへGO!」のDVDを購入し、当時のことを検証したことは言うまでもありませんね。

次号もバブルに続くネタで頼むよ、笠間市社協の矢口くん。



バブルを象徴する車といえば「ソアラ」。H26.1撮影。

平成26年度
**社会福祉施設
 総合損害補償**

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の
事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 **施設業務の補償** (賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

① **基本補償(賠償・見舞)**

▶補償金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	初期対応費用(期間中)	500万円	500万円
	事故初期見舞費用(1名につき)	死亡10万円 後遺障害0.3~10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)	死亡10万円 後遺障害0.3~10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)
	利用者傷害死亡事故弔慰金		死亡(重度後遺障害)100万円(78~100万円)
	利用者傷害事故見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

保険期間1年職種別A級

▶年額保険料(掛金)		基本補償(A型)
定員	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) + 見舞費用付補償(B型) = 基本補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円



スケールメリットを活かし、
割安な保険料
有利な補償と
です。

プラン2 **施設利用者の補償**

プラン3 **施設職員の補償**

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記をお願いします。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン
 TEL:03(3593)6433

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

日本興亜損保と損保ジャパンは、関係当局の認可等を前提として、平成26年9月1日に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」になります。

<SJ13-12122 2014.2.13 作成>





境町「朗読ボランティア すばる」



右から代表の小川さん、小野さん、岡田さん、中久喜さん

茨城県最西端にほど近い境町は、圏央自動車道の工事が急ピッチで行われるなど開発が進む一面とは裏腹に、坂東太郎の異名を持つ利根川に生まれ田園風景も美しくのどかな街で

す。そんなこの地で昭和61年の設立以来およそ30年という長きにわたり、朗読や読み聞かせを中心に地元へ根差したボランティア活動を続けるのが今回ご紹介する「朗読ボランティアすばる」のみなさんです。一口に朗読ボランティアと言っても活動は多岐にわたります。活動を始めるきっかけとなった視覚障害を持つ町民向けの町広報誌のテープ録音を始め、敬老の日にあわせて町内の75歳の人全員にお配りするテープ「声の便り」の作成活動。更にはなんと地元境町の全小学校5校で行っている朝の読書の読み聞かせ活動など実にさまざま。そして取材に伺ったこの日は茨城県立境特別支援学校の1、2年生に絵本や紙芝居を用いた読み聞かせが行われていました。

「障害を持ったお子さんたちに対しては何か特別な事をしなくては、と考えがちですが彼らはとても純粋。反応もストレートでこちらが教えてもらうことも少なくないんです。気持ちも新たになりますし、この活動のやりがいを感じる事が出来ます。」と語るの代表を務める小川八重子さん。先輩に誘われてこの活動を始めたという小川さんをはじめ、メンバーは全部で22名。30歳



手品に驚きの歓声

代から70歳代までさまざまな経歴を持つ人材にあふれ、まさにバラエティに富んだ活動の源となっているとのことです。月に一度の定例会で活動の柱を決めるとそこからは図書

館での本整理に始まり、読み聞かせの本選び。単に本選びひとつ取っても、その対象の反応も考慮しながらの細かい配慮や創意工夫を伴い、準備にはとても気を遣われるとのこと。



パネルシアターも登場



真剣に聞き入る児童たち

そんな地道な活動が結実し、今ではそれぞれの学校PTAなどにも良い影響がもたらされ、PTA独自の活動の幅が広がるといった波及効果や相乗効果につながっているそうです。そして時には感謝の手紙が寄せられることもあり「活動の原動力になりますね」と小川さんは語ってくれました。



大型絵本の迫力にびっくり

今後の取り組みについてお伺いすると

「これまでどおりマイペースで続けていきたいですね。私たちがこれまで長く続けてこられたのも、決して無理せずやってきたから。これを次の世代にも引き継いで行きたい。」明るく笑顔の絶えることのないこの活動に、境町の子どもたちの明るい未来が映って見える。そんな気持ちにさせられた一日でした。



茨城県立境特別支援学校



安心して暮らせる 「福祉社会」の 実現をめざして



はんどちゃん

茨城県社会福祉協議会では、誰もが尊厳をもって、
住み慣れた家庭や地域の中でその人らしく自立し、
社会参加を行いながら、安心して暮らせる地域社会の実現をめざし、
市町村社協や社会福祉施設をはじめ、関係機関・団体との連携・協働
により「福祉社会」の実現に向けた取り組みを行っています。

茨城県社会福祉協議会が設置・運営しているセンター等です

茨城県ボランティアセンター

TEL.029-243-3805

ボランティア活動に関心のある方、ボランティアを必要とされる方は、お気軽にご相談ください。お問合せは、お住まいの各市町村社会福祉協議会または茨城県ボランティアセンターまで。

茨城県福祉人材センター

TEL.029-244-3727 FAX.029-244-4543

職員を採用したい社会福祉施設・事業所などからの求人情報を受け、福祉の分野に就職を希望する方に無料で職業紹介を行っています。

茨城わくわくセンター

TEL.029-243-8989 FAX.029-244-4652

高齢者の生きがいと健康づくりを推進するため、各種スポーツ・文化活動に関するイベント等の開催や、わくわく元気アップ講座などの生涯学習講座を開設しています。

茨城県日常生活自立支援センター

TEL.029-241-1134

認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が不十分で、親族などの援助が得られない方に対して、次のサービスの相談、支援を行っています。

■福祉サービスの利用援助や金銭管理 ■書類などの預かりサービス
相談などは無料ですが、生活支援員による援助にかかる費用は原則として利用者にご負担していただくことになっています。

福祉に関する苦情解決事業

(運営適正化委員会) TEL.029-305-7193

福祉サービスを利用するにあたっての、悩み事や困りごとについて、相談を受け付けています。解決のための助言・調整・あっせんを行います。

茨城県総合福祉会館 利用の案内

茨城県総合福祉会館では、広く県民の皆様気軽にご利用いただけるよう、県民サロンを利用したサロンコンサートの開催や、ギャラリーでの展示をはじめ、コミュニティホール(定員 296名)・多目的ホール・研修室の貸出しを行っています。各種講習会や研修・会議等にご利用ください。

〒310-0851 水戸市千波町1918 TEL 029-244-4545 FAX 029-244-4548



「わくわく元気アップ講座」の受講者を募集します！

——テーマは「健康・生きがい・仲間づくり」——

■講座内容

総合講座10日間と選択講座（園芸コース・絵画コース）
11日間 合計21日間の講座を実施（予定）

【総合講座】

交流や趣味を広げ、楽しみながら生きがいと健康づくりに繋げるさまざまな生涯学習講座を行います。

【選択講座】

園芸コース・絵画コースのどちらかを選択します。各コースとも、初心者の方にもわかりやすく、基礎から学べる内容です。

■対象

県内に居住する概ね60歳以上の方

■募集人数

50名程度（園芸コース・絵画コース各25名）

■受講料

10,000円（わくわく事業推進サポーターは8,000円）

■申込方法・問合せ先

申込用紙は、市町村高齢福祉担当課、市町村社会福祉協議会、公民館、図書館などで3月下旬頃配布予定。

■申込先

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会 茨城わくわくセンター
〒310-8586 水戸市千波町1918
わくわく元気アップ講座担当宛
TEL：029-243-8989（わくわく）
FAX：029-244-4652（よろこぶ）

——人生のセカンドステージを応援します——



園芸コース



絵画コース

職場体験事業のご案内

福祉・介護の仕事に興味・関心を持っている方に、実際の福祉・介護現場の業務を体験していただくことができます。

体験先

高齢者分野	障害児・者分野
・特別養護老人ホーム ・介護老人保健施設	・障害者支援施設 ・障害者就労継続支援事業所
ほか	ほか

体験内容（例）

各施設・事業所が用意する体験プログラム
◆利用者の介護・介助 ◆作業補助 ◆利用者との交流

参加対象者

福祉・介護の仕事に興味・関心を持っている方
茨城県内の福祉施設等に就職を希望している方（一日概ね6時間）

体験期間

一人あたり10日以内。1施設。

■参加にあたって

- ◇25年度の職場体験事業の実施は3月31日までとなります。体験をご希望の方は、3月25日（火）までにご連絡ください。状況によっては体験が難しい場合もございますのでご了承ください。
- ◇参加費は無料です。
- ◇お申込みは所定の申込用紙にご記入いただき、福祉人材・研修部宛てに郵送又はFAXにて申込みください。
- ◇申込用紙は県社協ホームページよりダウンロードできます。福祉人材センター ⇒ イベント情報 ⇒ 職場体験事業のご案内

【申込先】

茨城県福祉人材センター
〒310-8586 水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館2階
TEL：029-244-4544 FAX：029-244-4543

茨城県警察からののお知らせ

茨城県の交通事故死者の

約**6割**が**高齢者**です!!

（平成26年2月4日現在）

道路横断時に事故多発!

歩行者も自転車も

- 無理な横断は絶対にやめましょう。
- 横断時は必ず右左の安全を確認しましょう。

茨城県の交通事故死者16人のうち10人が高齢者!!



薄暮時から夜間に事故多発!

歩行者も自転車も

- 反射材用品を身につけましょう。
- 夜間の外出はできるだけ避けましょう。



茨城県警察